

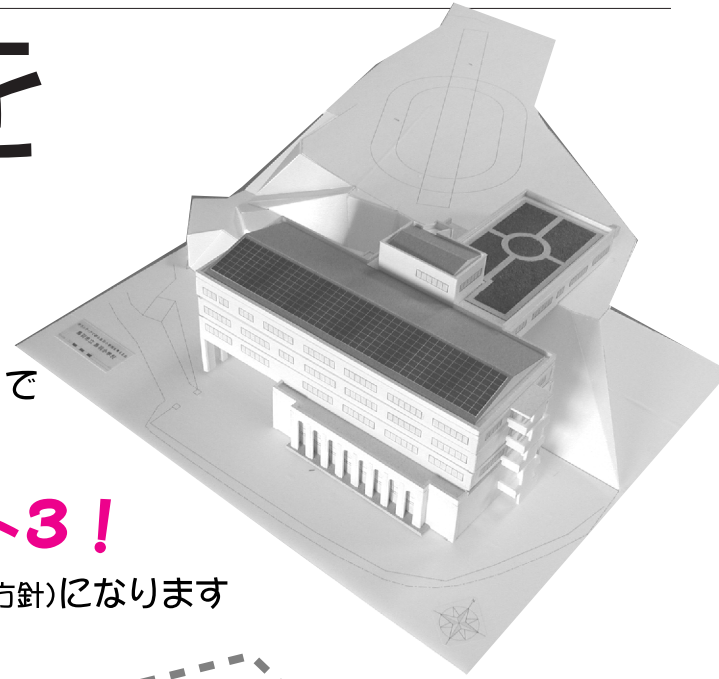
みんなの意見を「ボランティアで創る鳥羽小学校建設実行委員会」がまとめました

こんな学校を 創りたい！

第3回のワークショップ「これでなくちゃ鳥羽小じゃない」で

みんなで決めた 鳥羽小学校創りに大切なベスト3！

これが、この小学校創りの基本的なコンセプト(柱となる方針)になります



No.1

住民も使える 鳥羽小学校



一番大事、優先順位No1に選ばれたのは、「住民も使える小学校」でした。
小学校に関わる大人はPTAだけじゃない、地域全体での子育て抜きでは小学校は語れない、といえます。子どもを隔離して勉強を詰め込む場ではなく、人間を育てる場所として、「地域の風が行きかう学校」にしていこう、そんな気持ちのNo.1です。
義務や当番ではなく、大人も子どももみんなが自分からいきいたい！と思える学校がいい。「坂道上のエライけど、ええことあるで小学校へ行くんや」そう思わせる学校…みんなに目的や喜びがある学校をつくりたいと思いませんか？
また、小学校は防災の拠点にもなります。地域ぐるみで大切にしていける学校づくりを考えようと、みんなの意見がまとまりました。

◆学校にどんな関わり方が出来るかな？



例えば…

得意なことを活かして！みんなで使う学校

- 放課後は校舎のカギをまかせる
- 花壇の世話を
- 何かに長けた人に来て欲しい。
地域の大人が子ども達の先生になって
- あき教室をサークル活動に
- 地域の人と台所で行事を
- 図書室の利用

No.3

現在の校舎のイメージ がある鳥羽小学校



No.2

海が見える 鳥羽小学校



優先順位No.2は「やっぱり鳥羽は海がなくちゃ！鳥羽は海だ！」ということになりました。

今の子どもは、昔は、校舎のすぐ下まで海だったことは知りません。でも、海は今も見えます。それは、なくしたくない。新しい校舎からも、海が見えるといいな、とみんなが思いました。

小学校の校歌にも「♪波静かなる～にしきうら～」という歌詞がありますが、鳥羽小学校のこども達は、今も昔も未来も海を見て、身近に感じて育っていかなくちゃ。



優先順位No.3は、鳥羽小学校の100年あまりの歴史をどこかにとめたいという思いを選びました。新しいものばかりがいいのではなく、歴史を大切に思う気持ちを子ども達にも伝えたい、ということです。

鳥羽小学校には、あちらこちらにレトロでかっこいい意匠などが残っています。そんなデザインの基本は、文化として残したい、と考えました。構造は安全に、でも、古いものは大切に！そんな気持ちを象徴するものを校舎のどこかに残したい。昔の「ええとこ」を、次の世代へつなげよう、とみんなの思いがまとまりました。

●みんなで決めた3つを基本に

鳥羽小学校の現状を再確認するところから始め、漠然としていたものを、意見を出し合い、それを整理しながら輪郭を創っていきました。出てきた意見はみんな必要なものだったと思います。しかし、すべてを実現することは不可能でしょう。絵に描いた餅に終わらない現実的な提案とするために、出していただいた意見を集約・分類し、議論をして、参加したみんなで優先順位を決めました。その結果が、ここにあげた3つです。しかし、このままこれができるわけではありません。あくまでも提案ですから、これを元にこれからの取り組みの中で具体化していくものだと考えてください。

実行委員会では、いろんな人が関わって学校をつくっていくことが大切だと考えて進めてきました。

イメージをかたちにするところから、それが実現し新しい学校ができてからも、できるだけたくさんの人に関わってもらいたいと思います。もちろんボランティアといっても「関わった責任」もみなさんに感じていただきたいと思います。

こうしてワークショップに住民が参加して、自分たちの問題として学校づくりを真剣に考え、他の人の意見を聞き、場を共有するというプロセスを経たことが、まずは住民と学校の新しい関係をつくり、地域と学校の融合を実現する第一歩を踏み出したといえるのではないのでしょうか。

これから
実現して
いくんです！

【提案】
設計者の選定は
プロポーザル方式の採用を

小学校建設を実現するにあたって考えなくてはいけないことのひとつは、こうして市民のアイデアを練って、つくっていったコンセプトを十分理解し、それを踏まえて建築設計のできる、最も適した設計者を選定していただきたい、ということです。

公共の建物は、通常入札方式で業者が選定されますが、設計の質を確保するには、設計料の多寡によらず、設計者の創造性、技術力、経験などを評価し、その設計業務の内容に最も適した設計者を選定する必要があります。そこで、委員会では、入札以外の方法の中で適用範囲の広さ、簡便性、客観性等の点で優れた方法として広く採用され始めている「プロポーザル方式」の採用を提案します。

「プロポーザル方式」とは、技術力や経験、プロジェクトにのぞむ体制などを含めたプロポーザル（提案書）を提出してもらい、公正に評価して設計者を選ぶ方式です。「プロポーザル方式」選定がすぐれている点は、出来上りの質の高さに重点が置かれ、設計を委託すべき「人（設計者）」を選ぶということです。

また、わかりやすさを考慮し、設計案も同時に提示する設計コンペとプロポーザルの中間的な発注形式が現実的と考えます。